

参考資料

【身近な緑に関するアンケート調査】（平成26年度現計画策定時）

- 県民の緑に対する意識の変化等を把握するため、平成15（2003）年に実施した「身近な緑に関する対するアンケート調査」と同様の調査を行い、その結果との比較を行いました。

（1）調査対象：県政モニター

区分	平成15年度	平成24年度
一般モニター※ ¹	361名	323名
インターネットモニター※ ²	104名	73名
合計	465名	396名

※1 住民基本台帳から無作為に抽出した20歳以上の県民に調査依頼

※2 インターネットによるアンケート調査

（2）調査期間

平成15（2003）年度：平成15（2003）年9月～10月

平成24（2012）年度：平成24（2012）年12月

（3）回答者数(回答率)

区分	平成15年度	平成24年度
一般モニター	335名 (92.8%)	248名 (76.8%)
インターネットモニター	89名 (85.6%)	44名 (60.3%)
合計	424名 (91.2%)	292名 (73.7%)

（4）主な調査内容及び調査結果

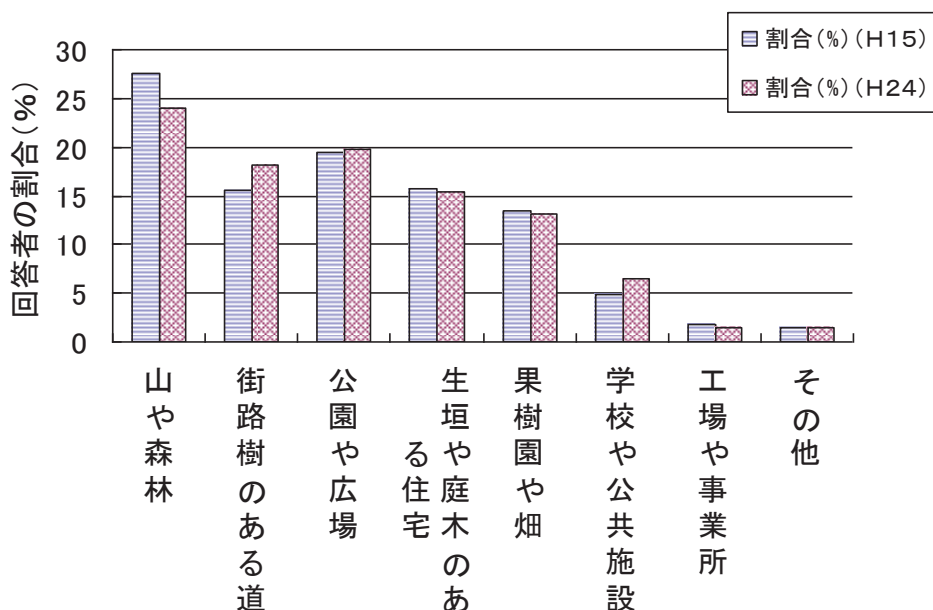
アンケートの結果は、次のとおりです。なお、集計の百分率は小数点第2位を四捨五入しているため、合計が100%にならない場合があります。

① 身近な緑を感じる場所

問 あなたが「身近な緑」を感じる場所はどこですか。次の中からいくつでも○印を付けてください。「身近な緑」とは、日常生活の行動範囲内にある樹木、草花などを指すこととします。

1. 山や森林 2. 街路樹のある道 3. 公園や広場 4. 生垣や庭木のある住宅
5. 果樹園や畑 6. 学校や公共施設（国、県及び市町村等の庁舎、公民館、図書館等） 7. 工場や事業所 8. その他

【アンケート結果】



区分	平成15年度		平成24年度		増減 割合 (%)
	回答数	割合 (%)	回答数	割合 (%)	
山や森林	361	27.6	236	24.0	-3.6
街路樹のある道	205	15.7	179	18.2	2.5
公園や広場	255	19.5	195	19.8	0.3
生垣や庭木のある住宅	207	15.8	152	15.5	-0.3
果樹園や畑	175	13.4	129	13.1	-0.3
学校や公共施設	64	4.9	63	6.4	1.5
工場や事業所	23	1.8	14	1.4	-0.4
その他	19	1.5	15	1.5	0.0
合計	1309		983		-

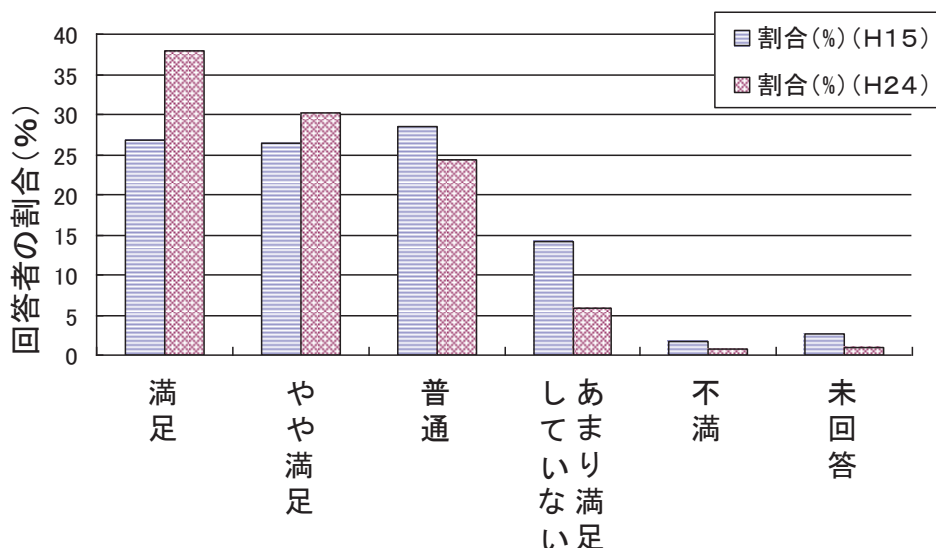
- 平成15（2003）年度、平成24（2012）年度ともに身近な緑を感じる場所として、「山や森林」とした回答が最も多い。
- 「公園や広場」、「街路樹のある道」、「生垣や庭木のある住宅」、「果樹園や畑」とする回答は多いが、「学校や公共施設」、「工場や事業所」とした回答は少ない。
- 平成15（2003）年度と比較して平成24（2012）年度は、街路樹や公共施設と回答する割合が若干増えているが、全体的には大きな意識の変化は見られない。

② 身近な緑の満足度

問 あなたは身近な緑の現状に満足していますか。次の中からいずれか一つに○印を付けてください。

1. 満足 2. やや満足 3. 普通 4. あまり満足していない 5. 不満

【アンケート結果】



区分	平成15年度		平成24年度		増減 割合 (%)
	回答数	割合 (%)	回答数	割合 (%)	
満足	113	26.7	111	38.0	11.3
やや満足	112	26.4	88	30.1	3.7
普通	121	28.5	71	24.3	-4.2
あまり満足していない	60	14.2	17	5.8	-8.4
不満	7	1.7	2	0.7	-1.0
未回答	11	2.6	3	1.0	-1.6
合計	424		292		—

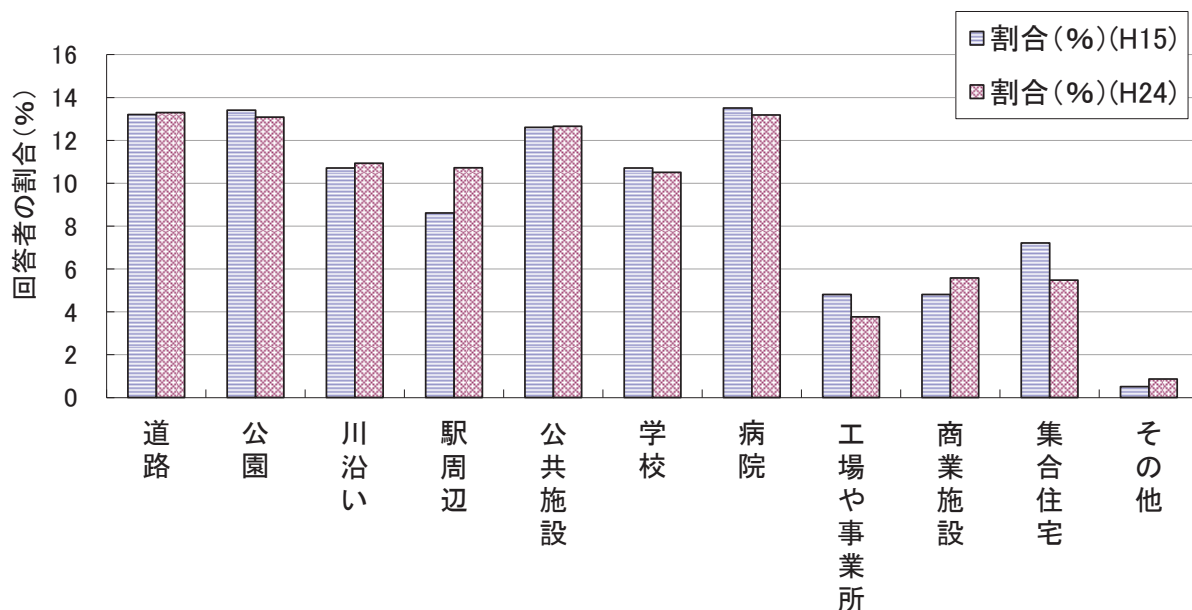
- 「満足」、「やや満足」と回答した割合は平成15年度53.1%、平成24(2012)年度68.1%。全体的な満足度は上昇している。
- 平成24(2012)年度の結果について居住地別に整理すると、「満足」、「やや満足」とした回答は、峡南地域で最も割合が高く80.0%、峡東地域で73.2%、富士・東部地域74.6%と高い割合となっている。最も低い中北地域についても、63.1%となっている。

③ 身近にもっと緑があれば良いと思う場所

問 身近にもっと緑があれば良いと思う場所はどこですか。次の中から5つまで選んで○印を付けてください。

1. 道路 2. 公園 3. 川沿い 4. 駅周辺
 5. 公共施設（国、県及び市町村等の庁舎、公民館、図書館等） 6. 学校
 7. 病院 8. 工場や事業所 9. 商業施設 10. 集合住宅
 11. その他（自由回答）

【アンケート結果】



区分	平成15年度		平成24年度		増減 割合 (%)
	回答数	割合 (%)	回答数	割合 (%)	
道路	201	13.2	124	13.3	0.1
公園	204	13.4	122	13.1	-0.3
川沿い	163	10.7	102	10.9	0.2
駅周辺	132	8.6	100	10.7	2.1
公共施設	193	12.6	118	12.6	0.0
学校	164	10.7	98	10.5	-0.2
病院	207	13.5	123	13.2	-0.3
工場や事業所	73	4.8	35	3.8	-1.0
商業施設	74	4.8	52	5.6	0.8
集合住宅	110	7.2	51	5.5	-1.7
その他	7	0.5	8	0.9	0.4
合計	1528		933		—

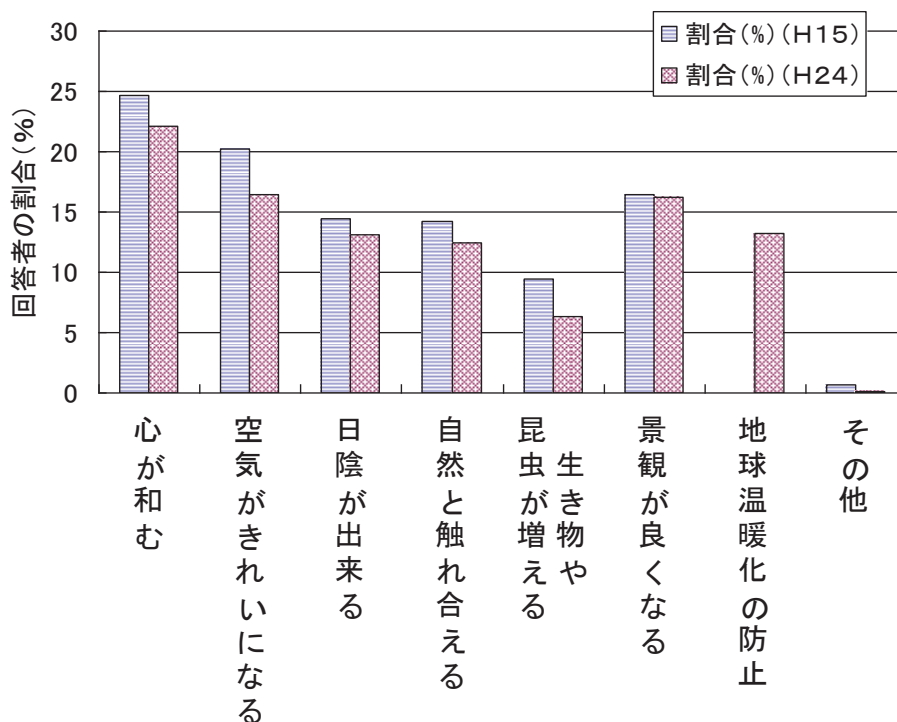
- 平成15（2003）年度から平成24（2012）年度にかけて、全体的な傾向に大きな変化は見られない。
- 駅周辺については、若干要望が増えている。
- 道路、公園、病院等の公共スペースについての要望が高く、工場や商業施設等の民有地についての要望は低いといえる。

④ 身近な緑の効用

問 身近な緑の効用は何だと思いますか。次の中からいくつでも○印を付けてください。

1. 心が和む
2. 空気がきれいになる
3. 日陰が出来る
4. 自然と触れ合える
5. 生き物や昆虫が増える
6. 景観が良くなる
7. 地球温暖化の防止
8. その他

【アンケート結果】



区分	平成15年度		平成24年度		増減 割合 (%)
	回答数	割合 (%)	回答数	割合 (%)	
心が和む	363	24.7	257	22.1	-2.6
空気がきれいになる	297	20.2	192	16.5	-3.7
日陰が出来る	211	14.4	152	13.1	-1.3
自然と触れ合える	208	14.2	145	12.5	-1.7
生き物や 昆虫が増える	138	9.4	74	6.4	-3.0
景観が良くなる	240	16.4	189	16.2	-0.2
地球温暖化の防止	—	—	154	13.2	13.2
その他	10	0.7	1	0.1	-0.6
合計	1467	—	1164	—	—

※「地球温暖化の防止」の設問は、平成24年度調査で新設しました。

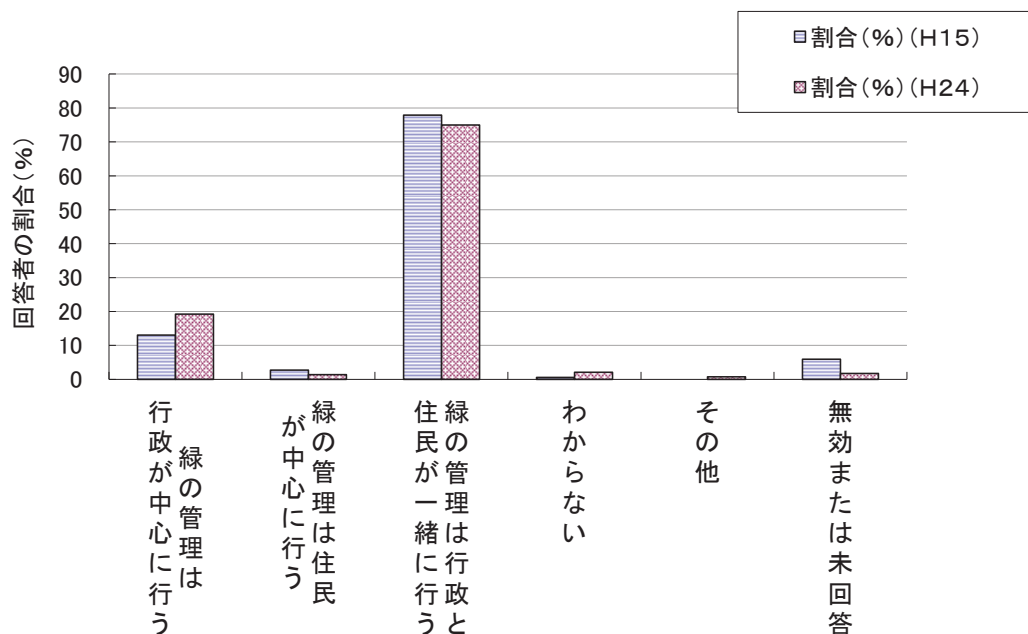
- 平成15年から全体的な傾向に大きな変化は見られない。
- 身近な緑の効用としては、「心が和む」とした回答が最も多い。
- 今回調査で追加した「地球温暖化の防止」についても、緑の効用が認知されている。

⑤ 身近な緑の管理

問 道路や公園などの緑を管理する上で、住民と行政の役割をどのように考えますか。
次のいずれか一つに○印を付けてください。

1. 緑の管理は行政が中心に行う 2. 緑の管理は住民が中心に行う
3. 緑の管理は行政と住民が一緒に行う 4. わからない 5. その他

【アンケート結果】



区分	平成15年度		平成24年度		増減 割合 (%)
	回答数	割合 (%)	回答数	割合 (%)	
緑の管理は行政が中心に行う	57	13.0	56	19.2	6.2
緑の管理は住民が中心に行う	12	2.7	4	1.4	-1.3
緑の管理は行政と住民が一緒に行う	342	77.9	219	75.0	-2.9
わからない	2	0.5	6	2.1	1.6
その他	0	0	2	0.7	0.7
無効または未回答	26	5.9	5	1.7	-4.2
合計	439		292		—

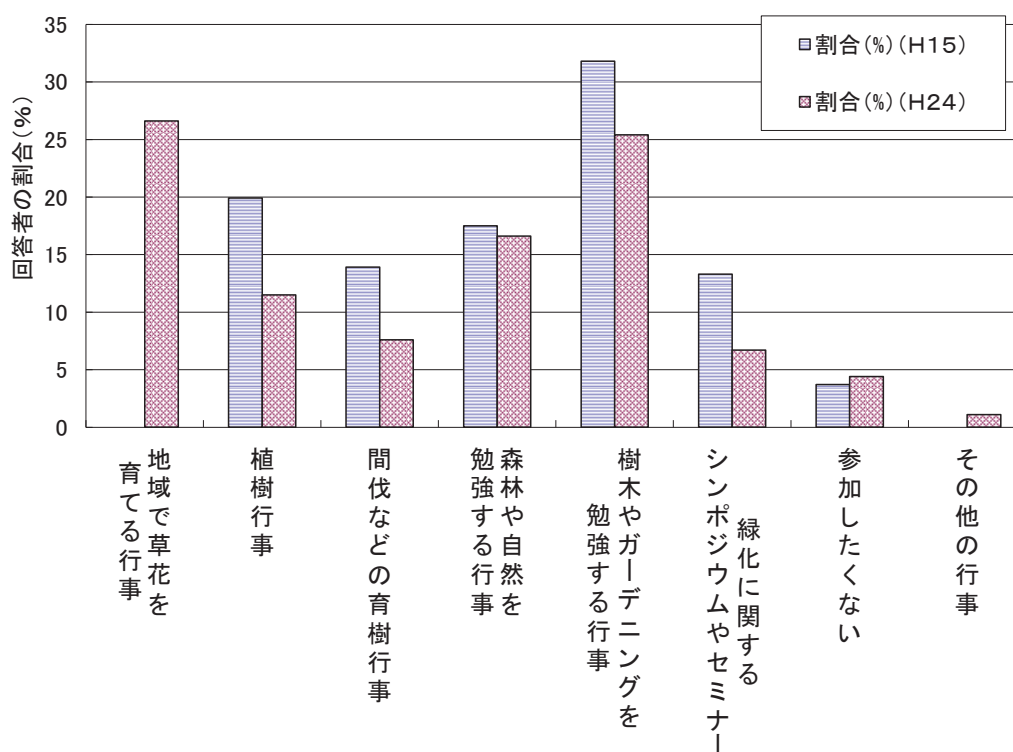
- 平成15（2003）年度、平成24（2012）年度とともに身近な緑の管理は「行政と住民が一緒に行う」とした回答が約8割を占めている。
- 一方で、「行政が中心に行う」とする回答が約6ポイント増加している。

⑥ これから参加したいと思う緑に関する事項

問 これから参加したいと思う緑に関連する行事はどのようなものですか。次の中からいくつでも○印を付けてください。

1. 地域で草花を育てる行事
2. 植樹行事
3. 間伐などの育樹行事
4. 森林や自然を勉強する行事
5. 樹木やガーデニングを勉強する行事
6. 緑化に関するシンポジウムやセミナー
7. 参加したくない
8. その他の希望する行事

【アンケート結果】



区分	平成15年度		平成24年度		増減 割合 (%)
	回答数	割合 (%)	回答数	割合 (%)	
地域で草花を育てる行事			139	26.6	—
植樹行事	152	19.9	60	11.5	-8.4
間伐などの育樹行事	106	13.9	40	7.6	-6.3
森林や自然を勉強する行事	134	17.5	87	16.6	-0.9
樹木やガーデニングを勉強する行事	243	31.8	133	25.4	-6.4
緑化に関するシンポジウムやセミナー	102	13.3	35	6.7	-6.6
参加したくない	28	3.7	23	4.4	0.7
その他の行事			6	1.1	—
合計	765		523		—

※「地域で草花を育てる行事」の設問は、平成24年度調査で新設しました。

○ 平成24年度に新設した「地域で草花を育てる行事」が最も回答数が多い一方、それ以外の回答が減少している。

【県が選定した郷土種（平成15年度緑化計画より）】

○ 緑化園で養成する樹種は、次の事項を考慮して選定しました。

- ◆ 一般に流通が少ない。
- ◆ 大型化しても手間がかからず移植可能。
- ◆ 県の木、県の花、山梨県周辺に自生に限られる貴重種等。
- ◆ 現在、利用が少ないが、緑化樹として推奨できる。
- ◆ 緑化樹で利用しない場合でも、木材としての利用価値も高い。

郷土種の特性

暖温帯：標高300m以下、中間温帯：標高300m～1,200m、冷温帯：標高1,200m～1,500m

（「山梨県植物誌」から）耐陰性：陽＝陽樹 中＝半陰樹 陰＝陰樹 成長性：○＝早い △＝中庸 ×＝遅い

乾湿性：乾燥・湿潤に対する適応 耐剪定性：○＝強 ×＝弱

耐煙性：○＝強 △＝中庸 ×＝弱 移植難易度：○＝容易 △＝中庸 ×＝困難

種別	樹種名	観賞性			生育特性				取扱い		備考	
		花	葉	実	耐陰性	乾湿性	耐煙性	成長性	耐剪定性	移植難易度		
高木 暖温帯	常緑広葉	アラカシ			○	中	中	○	○	△	×	生垣.遮蔽.防火.公園樹
	常緑広葉	ウラジロガシ			○	陰	中		○	△	×	遮蔽、防火、公園樹
	常緑広葉	シラカシ			○	陰	湿	○	○	△	×	生垣.遮蔽.防風.防火
	常緑広葉	ヤブツバキ	○		○	陰	中	○	×	○	△	生垣.防火.公園樹
	常緑広葉	ユズリハ		○		陰	耐湿	○	△	×	△	防火.公園樹
中木 中間温帯	落葉広葉	アオナシ	○		○	陽	耐湿		○	△	△	公園樹.記念樹.実食用
	落葉広葉	アカシデ				陽	中		○	×	○	緑陰樹.公園樹
	常緑針葉	アカマツ				陽	乾	×	○	△	△	防風.記念樹
	落葉広葉	イヌシデ				中	耐乾	△	○	×	○	緑陰樹.公園樹
	落葉広葉	イロハモミジ		○		中	湿	△	○	△	○	県の木
	落葉広葉	ウワミズザクラ	○		○	陽	湿	△	○	△	△	緑陰樹.実食用
	落葉広葉	ウリカエデ		○		中	湿		△	△	○	
	落葉広葉	ウリハダカエデ		○		中	湿		△	△	△	緑陰樹
	落葉広葉	エゴノキ	○		○	中	好湿	-	○	△	△	緑陰樹.公園樹
	落葉広葉	エドヒガン	○	○		陽	中	△	○	△	○	
	落葉広葉	エノキ				陽	中	○	○	△	○	緑陰樹.公園樹
	落葉広葉	オオモミジ		○		中	湿	△	○	△	○	緑陰樹.公園樹
	落葉広葉	カマツカ	○	○	○	陽	耐乾		△	○	○	
	落葉広葉	クスギ			○	陽	耐湿	○	○	×	×	
	落葉広葉	クマシデ				中	中		○	×	○	緑陰樹.公園樹
	落葉広葉	クリ			○	陽	弱乾	△	○	△	△	緑陰樹.果樹
	落葉広葉	ケヤキ		○		陽	好湿	△	○	△	○	緑陰樹.公園樹.街路樹
	落葉広葉	コナラ		○		陽	耐乾	△	○	△	○	緑陰樹
	落葉広葉	サワシバ				中	耐湿			○	△	緑陰樹

種別	樹種名	観賞性			生育特性				取扱い		備考				
		花	葉	実	耐陰性	乾湿性	耐煙性	成長性	耐剪定性	移植難易度					
高木	中間温暖帯	常緑針葉	サワラ			陰	耐湿	○	○	○	○	生垣.遮蔽			
		常緑針葉	スギ			陽	好湿	×	○	○	×	生垣.遮蔽.防風			
		落葉広葉	ズミ	○	○	○	陽	耐湿		△	○	△			
		常緑広葉	ソヨゴ			○	陽	耐乾	△	○		△	防火		
		落葉広葉	ツノハシバミ			○	陽	中		△	○	○	実食用		
		落葉広葉	ナツツバキ	○			中	中	△	○	×	○	公園樹		
		落葉広葉	ネムノキ		○		陽	中	△	○	△	×			
		落葉広葉	ハシバミ			○	陽	中		△	○	○	実食用		
		常緑針葉	ヒノキ				陰	耐乾	○	○	○	△	生垣.遮蔽.公園樹		
		常緑針葉	ヒメコマツ				中	中		○	△	×			
		落葉広葉	ヒメシャラ	○			陽	好湿	△	○	△	○	茶庭		
		常緑針葉	ビャクシン			○	陽	乾	△	×	○	×			
		落葉広葉	マンサク	○			中	中		△	△	○			
		落葉広葉	ミズキ	○		○	陽	中		○	×	○	緑陰樹.公園樹		
		落葉広葉	メグスリノキ		○		中	中		△	△	△			
		落葉広葉	ヤマザクラ	○	○		陽	湿	△	○	×	△	緑陰樹		
		落葉広葉	ヤマナシ	○		○	陽	耐湿		○	△	△	公園樹.記念樹		
		落葉広葉	ヤマボウシ	○	○	○	陽	好湿		○	△	○	公園樹		
		高木	冷温帯	落葉広葉	アオハダ			○	中	耐乾		△	×	△	緑陰樹.公園樹
				落葉広葉	アズキナシ	○	○	○	陽	耐乾		△	△	△	緑陰樹.公園樹
落葉広葉	イタヤカエデ				○		中	中		○	△	○	公園樹		
常緑針葉	イチイ				○	○	陰	好湿	○	×	○	△	生垣.公園樹		
落葉広葉	イヌエンジュ			○			陽	好湿	○	○	△	△	緑陰樹.公園樹.街路樹		
常緑針葉	ウラジロモミ						中	中	×	△	△	×	公園樹		
落葉広葉	オヒョウ				○		中	中		○	△	△	公園樹		
落葉広葉	カシワ				○	○	陽	中		△	×	△			
落葉広葉	カツラ				○		陽	好湿	△	○	△	○	生垣.公園樹		
落葉広葉	カラマツ				○		陽	中		○	△	×	生垣.防風.公園樹		
常緑針葉	キタゴヨウ						中	乾		○	△	×			
落葉広葉	コブシ			○			中	耐湿	○	○	×	○	緑陰樹.公園樹.芳香		
落葉広葉	コハウチワカエデ				○		中	中		△	△	○			
落葉広葉	シラカバ				○		陽	乾	○	○	△	△			
落葉広葉	トチノキ				○		中	好湿	○	○	×	△	緑陰樹.公園樹.街路樹		
落葉広葉	ハウチワカエデ				○		中	中		△	△	○			
落葉広葉	ハクウンボク			○	○	○	中	中	△	○	△	○	並木		
落葉広葉	ハシドイ			○			中	中		△	△	○	公園樹.芳香		
落葉広葉	ハルニレ						中	耐湿		○	△	○	緑陰樹.公園樹.街路樹		
落葉広葉	ヒコサンヒメシャラ			○			陽	好湿	△	○	△	○	茶庭		
落葉広葉	ブナ				陰	中		○	×	×	公園樹				
落葉広葉	ホオノキ	○			陰	湿	△	○		△					

種別		樹種名	観賞性			生育特性				取扱い		備考		
			花	葉	実	耐陰性	乾湿性	耐煙性	成長性	耐剪定性	移植難易度			
高木	冷帯	落葉広葉	ミズナラ			○	陽	耐湿		○	○	○	公園樹	
	温帯	落葉広葉	ミズメ				陽	中		○	×	×	公園樹、香木	
低木	暖帯	常緑広葉	アオキ			○	陰	好湿	○	○	○	○	生垣.遮蔽.防火	
		落葉広葉	ガクウツギ	○	○		陰	好湿		○	○	○		
		常緑広葉	ナンテン		○	○	陰	好湿		△		○	生垣.縁起木	
		落葉広葉	ヒサカキ				陰	-	○	△		△	生垣.遮蔽.公園樹	
		常緑広葉	ミヤマシキミ	○	○	○	陰	中		△	△	○		
		落葉広葉	ヤブデマリ	○		○	陽	中		○	○	○		
		落葉広葉	ユキヤナギ	○			陽	中		○	○	○	生垣.公園樹	
	中間温帯	落葉広葉	ウツギ	○			陽	湿	○	○	○	○	生垣.境界樹	
		落葉広葉	ウメモドキ			○	陽	好湿	○	×	×	○	公園樹	
		落葉広葉	ガマズミ	○		○	陰	中	△	△	○	○		
		落葉広葉	キハギ	○			陽	中		○	○	○		
		落葉広葉	クロモジ				陰	中		△	○	○	香木	
		落葉広葉	サンショウバラ	○		○	陽	中		△	○	○		
		落葉広葉	シモツケ	○			陰	乾	△	○	○	○	公園樹	
		落葉広葉	ダンコウバイ	○	○		中	中		△	○	△	芳香花	
		落葉広葉	ツリバナ			○	陽	中		○	○	○		
		落葉広葉	ニシキギ		○	○	陰	乾	○	○	○	○	生垣.公園樹	
		落葉広葉	ニシキウツギ	○			陽	乾		○	○	○		
		落葉広葉	ノイバラ	○		○	陽	中		○	○	○	芳香花	
		落葉広葉	バイカウツギ	○			中	湿		○	○	○		
		落葉広葉	フジザクラ	○			陽	中		○	○	○	県の花	
		落葉広葉	マルバハギ	○			陽	乾		○	△	○		
		落葉広葉	ミツバツツジ	○	○		中	耐乾	△	△	△	△		
		落葉広葉	ムラサキシキブ			○	中	中	○	○		○		
		落葉広葉	ヤマアジサイ	○			陰	好湿		○	○	○		
		半落葉広葉	ヤマツツジ	○			陽	耐乾	△	△	○	○		
		落葉広葉	ヤマハギ	○			陽	中		○	○	○		
		落葉広葉	ヤマブキ	○			陰	湿	△	○	△	○		
		冷温帯	落葉広葉	アイズシモツケ	○			中	中		○	○	△	
			落葉広葉	アズマシャクナゲ	○	○		中	中		×	×	×	
			落葉広葉	カンボク	○	○	○	陽	中		○	○	○	
			落葉広葉	サラサドウダン	○			中	中		○	△	○	
落葉広葉	ノリウツギ		○			陽	乾		○	○	○			
落葉広葉	マユミ			○	○	陽	耐湿		○	×	○	公園樹		
落葉広葉	リョウブ					陽	中	△	△	○	○			
落葉広葉	レンゲツツジ		○			陰	湿	△	△	△	○			

耐陰性：陽＝陽樹 中＝半陰樹 陰＝陰樹

成長性：○＝早い △＝中庸 ×＝遅い

乾湿性：乾燥・湿潤に対する適応

耐剪定性：○＝強 ×＝弱

耐煙性：○＝強 △＝中庸 ×＝弱

移植難易度：○＝容易 △＝中庸 ×＝困難

参考：「花と緑を楽しむ庭」（ぎょうせい）、造園ハンドブック（（社）日本造園学会）

「樹木根系図説」（誠文堂新光社） 荻住昇

【用語の解説】

ESD	Education for Sustainable Development の略で「持続可能な開発のための教育」と訳されています。今、世界には環境、貧困、人権、平和、開発といった様々な問題があり、ESD とは、これらの現代社会の課題を自らの問題として捉え、身近なところから取り組み、持続可能な社会を創造していくことを目指す学習や活動です。
カーボンオフセット	日常生活や経済活動で避けることができないCO ₂ 等の温室効果ガスの排出について、どうしても削減できない量の全部または一部を他の場所での排出削減・吸収量で埋め合わせることを。
グリーンインフラ	社会資本整備や土地利用等のハード・ソフト両面において、自然環境が有する多様な機能（生物の生息の場の提供、良好な景観形成、気温上昇の抑制等）を活用し、持続可能で魅力ある国土づくりや地域づくりを進めること。
景観アドバイザー	景観に関して専門的な知識を有する学識経験者、実務者等を景観アドバイザーとして登録し、派遣要請のあった事業に対し最も適した助言者を選定し派遣する。
気候変動に関する政府間パネル	人為起源による気候変化、影響、適応及び緩和方策に関し、科学的、技術的、社会経済学的な見地から包括的な評価を行うことを目的として、1988年に世界気象機関（WMO）と国連環境計画（UNEP）により設立された組織。
県レッドデータブック	本県に生息、生育する野生動植物を保護し、生態系の保全を図るため、本県の実態にあった野生生物の種の希少性の評価を行った。
こどもエコクラブ	子どもたちが環境保全活動や環境学習を通じて、自然を大切に思う心や、環境問題解決に自ら考え行動する力を育成し、地域の環境保全活動の環を広げることを目的として、幼児（3歳）から高校生までが参加できる環境活動のクラブのこと。
混住化	農家・非農家、またいわゆる新住民が混在している社会（地域）、農村の都市化（住宅化）のこと。

山岳レインジャー	高山植物を保護するためには、生息状況の調査や盗掘防止の巡視を行っている。その生息分布域が危険を伴う高山帯に集中しているので、現在、その巡視を安全な登山のできる専門家である山梨県山岳連盟に委託している。
CO ₂ の吸収量をクレジット化	森林は間伐など適切な整備を行うことによって、より多くのCO ₂ を吸収する。その吸収量を算定し、カーボン・オフセットに活用できるものとする。
自然監視員	山梨県自然環境保全条例に基づき、市町村職員等や一般県民から知事が任命し、県内各地にある31地区の自然環境保全地区等を中心に、条例に違反する行為がないか県内の自然環境を監視している。
樹木医	樹木の病気を診断して、樹勢の回復を助ける専門家。(一財)日本緑化センターが認定を行っている。
森林セラピー [®]	森林浴などのレクリエーション活動やリハビリテーション、カウンセリングをはじめとした医療活動など、森林や森林を取り巻く環境などを総合的に活用して健康回復・維持・増進を図るための取り組み。
森林文化の森	あるがままの森林の中で自然と親しみ、学び、個性ある郷土の原風景を再生することを目指して整備した森林のこと。現在県内に12箇所あり、この森では、現在ある森林の特徴を最大限生かしながら、地域的な歴史や産業にふさわしい樹種の森林を育成している。
生態系	ある地域に棲む生物(生物群集)と、その生活に影響を与える無機的な環境(土壌、水、空気等)とを総合したシステム。
生物多様性	生命誕生から40億年の生物進化が生み出した地球上に存在するすべての生物の間に違いがあること(変異性)を意味し、遺伝子、種及び生態系の3つの観点から捉えられる。
どんぐりクラブ	どんぐりを拾ってきた児童等を対象に、会員登録を行い、会報の発行や苗木の交換等を通して、緑に親しみ、森林を慈しむ心を醸成することを目的とした取り組み。
二地域居住	都会住民が本人や家族のニーズ等に応じて、多様なライフスタイルを実現するための手段の一つとして、農山漁村等の同

一地域において、中長期、定期的・反復的に滞在すること等により、当該地域社会と一定の関係を持ちつつ、都市の住居に加えて生活拠点を持つこと。

ヒートアイランド現象 主に都市部において、建物や自動車からの廃熱、排ガス、舗装面の熱吸収などによって、郊外よりも夜間気温が下がらなくなる現象。この現象を等温線で描くと、あたかも都市部を中心に「熱せられた島」があるようにみえることから名付けられた。

フットパス イギリスで発祥した森林や田園地帯など、自由に通行できる歩行者のための公共用散策路のことで、国内においても、各地域の特徴を生かしたコースづくりが進んでいる。

緑サポーター 樹木医の指導のもとで緑の保全に関する相談、指導等の補助的な活動を行う者。

一定期間の研修を終了し（一財）日本緑化センターの登録を受けると「緑サポーター」の称号が与えられる。

樹木医の指導のもとで行う「緑サポーター」の活動が1年間に30日以上の場合、その1年は樹木医研修受講者の応募資格に定める業務経験年数に参入することができる。

緑の少年隊 次代を担う子供たちが、緑と親しみ、緑を愛し、緑を守り育てる活動を通じて、ふるさとを愛し、人を愛する心豊かな人間に育っていくことを目的とした自主的な団体で、日常的に植樹活動、環境美化活動等に取り組んでいる。

木育 子どもから大人までを対象に、木材や木製品との触れ合いを通じて木材への親しみや木の文化への理解を深めて、木材の良さや利用の意義を学んでもらうための教育活動

モータリゼーション 自動車が生生活必需品として普及する現象のこと。

やまなし森づくり
コミッション 森林ボランティアグループ、環境関係団体、森林・林業関係団体等と山梨県で構成する任意団体で、企業や団体、県民、学校などの森づくり活動に関する様々なサポートを行っている。

【策定の経緯】

平成25年 1月	県政モニターを対象とした「身近な緑に関するアンケート調査」の実施
平成25年 8月	緑づくりに関わる有識者等13名で構成する「新緑化計画検討委員会」の設置
平成25年 9月	緑化施策推進庁内連絡会議（第1回）
平成25年10月	新緑化計画検討委員会（第1回）
平成25年11月	新緑化計画検討委員会（第2回）
平成25年12月	新緑化計画検討委員会（第3回）
平成25年12月 ～平成26年1月	パブリックコメントの実施
平成26年3月	「山梨県緑化計画－多様な主体が支える緑づくりの推進－」の策定
平成30年11月	森林審議会 中間見直しの考え方、指標の進捗状況等を報告
平成30年12月 令和元年9月	森林審議会 中間見直し（素案）の概要を報告
令和元年10月 ～11月	パブリックコメントの実施
令和元年12月	「山梨県緑化計画－多様な主体が支える緑づくりの推進－」の中間見直し策定

【新緑化計画検討委員会・委員名簿】

（平成26年度現計画策定時）

氏名	役職名
芦澤 公子	特定非営利活動法人みどりの学校理事長
雨宮 護	東京大学空間情報科学研究センター助教
石原 政人	一般社団法人山梨県造園建設業協会会長
長田 孝文	甲府市建設部長
北村 眞一	山梨大学大学院教授
坂本 昭	特定非営利活動法人フィールド'21理事長
白川 恵子	パルシステム山梨理事長
田邊 佳子	山梨県建築士会女性部会相談役
向井 恵子	緑のネットワーク21代表
安富 芳森	公益財団法人山梨県緑化推進機構代表理事
矢羽 正子	都留市東桂保育園理事長
山瀬 俊彦	一般社団法人山梨県林業研究会理事長
若月 清	山梨市農林商工課長